

WORLD HERITAGE

NEWS

世界遺産ニュースレター

Letter

世界遺産富士山の
後世継承に向けて

特集

富士山世界遺産センター
写真で見る 開館1年の歩み

今夏の富士山保全協力金の状況

研究員コラム

富士山と須走口

～お札博士フレデリック・スタール

vol.

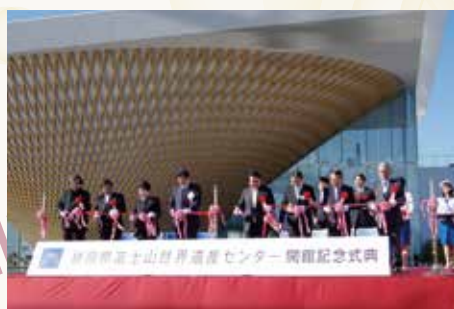
38

December, 2018

富士山世界遺産センター写真で見える開館1年の歩み

平成29年12月23日 開館初日

早朝より、多くの方にお並びいただきました。展望ホールから仰ぎ見る富士山の雄大な姿に多くの感動の声をいただきました。



平成29年12月22日 開館記念式典

晴天の中、多くの来賓の方々に見守られ開館記念式典を開催することができました。

平成30年7月2日 30万人達成

年間来館者目標であった30万人を、開館約半年で達成することができました。



平成30年2月22日 10万人達成

富士山の日の前日に、10万人目の来館者となった御夫婦が皆さんに祝福されました。

平成30年12月1日 50万人達成

開館1周年を前に、愛知県からお越しの御家族が50万人目の来館者として祝福されました。



平成30年10月

センター1階ミュージアムショップにてセンターを象徴する木格子型の中「富士すがた」の販売を始めました。
(館内限定販売)

富士山世界遺産センターサポートボランティア募集

新年度からの新規サポートボランティアを希望される方を対象とした説明会を実施します。詳しい内容は、静岡県富士山世界遺産センター公式ホームページをご覧ください。電話にてお問い合わせください。電話0544-21-3776

静岡県富士山世界遺産センター 公式ホームページ 公式フェイスブックの御案内

公式ホームページ、公式フェイスブックを随時更新しています。センターに関する最新情報を是非御確認ください。公式ホームページには、企画展、イベント情報のほか、団体観覧申込、教育団体申込の書式を掲載しています。御利用ください。

企画展の御案内

12/15～2/11 「富士山と須走口～須走口登山道調査速報展～」
2/23～4/7 「秀景ふるさと富士写真展」

今夏の富士山保全協力金の状況

今夏、静岡県側の富士山保全協力金について、57,155人の方から56,552,173円の御協力をいただくことができました。たくさんのお協力ありがとうございました。

昨年との比較では、協力者数で3,068人の増、金額では、4,504,590円の増となり、協力人数、金額とも過去最高となりました。

各五合目で、雨天対応としてテントやリュック置場を設置したことや登山者の多い富士宮口の登山道脇に第2受付所を設置するなど、登山者の方が協力しやすい環境を整えた結果だと思われる。

来年の夏には、更に多くの方に御協力いただけるよう、協力金制度の周知と富士山を保全する意識の醸成を図りたいと思います。

皆様からいただいた協力金は、山小屋バイオトイレの改修工事、ゴミ持ち帰りマナー向上対策といった富士山の環境保全や、富士宮ルート八合目の衛生センター（診療所）の運営期間の延長や山頂で混雑時の誘導を行う安全誘導員の配置などの登山者の安全対策に活用させていただいております。

御協力をいただいた皆様には、この紙面を借りてお礼申し上げますとともに、来夏も富士登山をされる方には、引き続き、富士山保全協力金に御協力くださるようお願いいたします。

年度	協力者数	金額	協力率
平成26年度	43,555人	44,021,208円	40.9%
平成27年度	43,792人	43,455,701円	46.7%
平成28年度	48,235人	46,525,569円	51.5%
平成29年度	54,087人	52,047,583円	48.2%
平成30年度	57,155人	56,552,173円	※ —

※環境省カウンターの不具合により、平成30年の富士宮登山道の登山者数に長期の欠測期間(8/14~9/10)が生じ、協力金算出の分母となる開山期間中の登山者総数が不明であることから、協力率は算定不能となった。

富士山のごみ持ち帰り

ごみの持ち帰りがルールとなっている富士山で、昨年、特にお盆の時期に、ごみを持ち帰らないマナー違反の登山者が多く見受けられました。

このため、今夏は、先ほど協力金の使途で紹介したとおり、「ごみ持ち帰りマナー向上対策」を実施しました。

8月10日から19日まで、各登山口でごみの持ち帰りをイラストや多言語（10か国語）によりデザインした袋を手渡し、マナー向上を呼び掛けると共に、周辺施設でごみの放置状況を把握する調査を行いました。

その結果、昨年と比べて富士山に放置されるごみは少なかったとのことでした。

これからも、一人ひとりの登山者が、ごみを持ち帰ることとで美しい富士山を守っていきましょう。



ごみ袋配布の様子



ごみを持ち帰る登山者

富士山と須走口〜お札博士フレデリック・スタール

富士山は平成二十五年（二〇一三）六月にユネスコ世界文化遺産に登録されています。登録にあたってユネスコ世界遺産委員会から、今は使われなくなってしまう山中・山麓の登山道・巡礼路の位置・経路の全体を特定し、来訪者がかつての巡礼路の経路を通じて、構成資産間の関係性・つながりを認識・理解できるように、情報提供戦略等へと反映させるよう報告がなされています。

静岡県富士山世界遺産センターでは、ユネスコ世界遺産委員会における報告を踏まえ、構成資産間を結ぶ経路の特定に向けた調査を円滑に行うため、富士山巡礼路調査委員会を設置し、総合的な調査・研究を順次進めています。

富士山巡礼路調査の第一弾として、静岡県富士山世界遺産センターと小山町教育委員会では、平成二十七年より須走口登山道の調査を共同で進めて参りました。今年度は、その集大成として十一月末に調査報告書『富士山巡礼路調査 須走口登山道』が刊行されました。また当センター企画展示室では、十二月十五日(土)から平成三十一年（二〇一九）二月十一日(月)にかけて、「富士山と須走口〜須走口登山道調査速報展」を開催し、共同調査の成果を皆様にお知らせいたします。

須走口登山道は、駿東郡小山町須走に鎮座する富士浅間神社（須走浅間神社）を起点とし、富士山頂を終点とする登山道です。この登山道の成立時期は明確ではありませんが、旧六合目から至徳元年（一三八四）銘の懸仏が出土しており、その頃には開か

れていた可能性があります。登山道は須走地区から西方面へと伸びており、富士山頂まで続いていきますが、八合目の大行合と呼ばれる地点で吉田口登山道と合流し、そこから先はひとつの登山道となっています。

今回はこの須走口と非常に縁の深い人物で、お札博士と呼ばれたフレデリック・スタール（生没一八五八〜一九三三年）を紹介いたします。アメリカの人類学者でシカゴ大学名誉教授のスタールは、日本には計十六回来日しています。アイヌ、松浦武四郎、納札、富士講など幅広いテーマで日本研究を行っていました。自分の名をもじった「壽多有」と刷られた納札を日本各地の神社仏閣に貼っていたことから、「お札博士」と呼ばれて親しまれていました。スタールは富士登山も計五回行っていますが、須走地区の御師の流れを汲む大米谷旅館を常宿にし、須走口登山道から登山しています。

ここで紹介する古写真は、平成二十七年（二〇一五）末に開館準備を行っていた静岡県富士山世界遺産センターの整備課に寄贈された、御殿場市出身の郷土史研究家小林謙光氏のコレクションに含まれていたものです。金剛杖を手に、すげ笠を被り、行衣に身を包んで起立する中央の人物がスタールです。この古写真は、富士山頂久須志岳写

真館（撮影・富士郡吉原町の錦光館写真部）の台紙に添付されており、須走口登山道より登頂した山頂で撮影したものと思われます。また、台紙裏面に墨書があり、大正九年（一九二〇）夏に、万朝報記者の曾我部一紅（俊治）と古書研究家の斎藤昌三ら一行とのものとわかります。

またスタールは、富士山の見える場所で眠りたいとの遺言を残していました。昭和八年に亡くなった翌九年に、彼の功績を称える記念碑が建てられ、この碑とともに、須走口登山口を入つてすぐ脇にあったフジヤマホテル（大米谷旅館の後進）敷地に葬られました。石碑正面の「壽多有博士之碑」という一文は、徳富蘇峰による書をもとに刻んだものです。現在スタール博士の碑は、平成元年の日本道路公団による道路工事によつて、東富士五湖道路の須走IC側道付近に移動しています。この記念碑移動の際、スタール博士の遺骨も、須走地区内に新たに墓所が設けられ、改葬されました。



【参考文献】

- ・小林謙光『富士山東口須走登山道資料解題』（小林謙光、二〇〇一年十一月）。
- ・フレデリック・スタール『お札行脚』（国書刊行会、二〇〇七年三月）。
- ・『富士の里 須走』（須走歴史研究会、二〇〇九年八月）。（大高 康正）